

「成功事例」は百害あって一利無し。

「デモンは常に禁止を囁く」

唐突ですが、これもそのひとつかもしれません。

「情報とは大体、事例なのです」
そして、多くの方はその情報に縛られ、
何の行動も取れないでいます。

「情報の金縛り状態」です。

実はこれは情報を多く収集すればするほど、
がんじがらめになり、身動き出来なくなるのです。
その理由は多くの情報は「事例」だからです。

事例とは・・・当然「成功事例」と呼ばれているモノです。

そして、多くのスピーキングビジネス、コンテンツビジネスは
この「成功事例の発表会」です。

どうも、東方の賢者・ワイズマンです。

まず、すべての言葉には2つの相反する意味が
包摂されていることを知ってください。

例えば「男性」という言葉が発せられた時、
それは「女性ではない」という言葉が言外に発話されているのです。

[幸せ]は[不幸ではない]という言葉が同時に発話されます。

生に対して死がそれです。

こういったわかりやすい反語だけでなく、
Aという言葉には「非A」という言葉が同時に発話されています。

で、話を戻しますね。

「成功事例」という情報は常に「失敗事例ではない」
という言葉、コンテンツが同時に話されているのです。

この真偽は定かではありませんが、ここで面白い書籍を紹介します。

『神々の沈黙ー意識の誕生と文明の滅亡ー』/ジュリアン・ジュエインズ著

ちょっと大きな本なので完読するには時間がかかりますが、
昔、メソポタミア以前、文字を持たなかった人類は常に神々に
支配され、神々の言葉においてコントロールされていたというのです。

ひとりひとりに神がいて、その人の耳元でその神が囁くのです。

それはまるで人間をロボットのようにコントロールするように、です。

人間は自分の意志ではなく、

神の意志において意識し、行動をしていた。

しかし、人間が「文字」を発明した瞬間、
その神々が消え、沈黙してしまった。

という話です。

これは「文字」という形式、言葉にこの相反する
対極の反語を包摂してしまったということです。

だから、もう神が囁く必要がなくなってしまった

文字に神を封じ込んだということでしょう。

同じような、これは関係あるのかどうか、
私の推量ですが、ソクラテスって人ご存じですよ。

ソクラテス自体は何の著作も持っていない人、
要は文字を持たなかった人で、彼の存在は
ソクラテスの弟子であるプラトンの著作において
私たちは知っていますが、ソクラテスは急に雷が落ちたように
気を失うことが度々、あったそうです。

それをプラトンがソクラテスにデイモンが乗り移ったと記しています。

それがこの「二分心」の囁く神様なのです。

そして、そのデイモンがソクラテスに囁く言葉は
「常に禁止」であったそうです。

これが成功事例という情報を詰め込んだ末路だと私は思っています。

たくさん「成功事例」を収集することで、
たくさん「失敗事例」も同時に収集するのです。

そして、行動をしようとする、
その「失敗事例」が耳元で囁くのです。

それは「行動するな！失敗するぞ！」と。

だから、断言しましょう。

「成功事例」は百害あって一利無し。

もし、あなたが身動きとれずに、
何をしたいのかが、わからない。

そんな状態だったとしたら、それは不必要な情報で頭がいっぱいの状態なのです。

「知らないから、行動がとれない」ではなく、

「知りすぎているから、行動がとれない」のです。

必要なのは成功事例という結果を知ることではありません。

メソッドというプロセス、ルールを知ることです。

結果は与えられるモノではなく、そのメソッドを行うことで自身が勝ち得ることなのです。

そう、プランニングというメソッド。

それがあなたに一番、必要なのです。

東方からの賢者・ワイズマン

■補足

このレポートは今井秀明君のメルマガで紹介されたものです。

彼のメルマガに登録しておきますと、この“東方からの賢者”の正体や実例等が明かされるみたいです。

<http://digital-work.co.jp/site/mail>

今井秀明君とは(苦労人のナイスガイです！)

<http://tenchi-souzou.com/prof.pdf>

東方からの賢者・ワイズマンの実績等(これはしまだくんが紹介してくれてたね、ありがとう)

<http://tenchi-souzou.com/imai/sensei.pdf>